

別紙 2 標準仕様

部位	標準仕様
乗降口	<ul style="list-style-type: none"> ・乗降口の端部は路面と明確に識別する。 ・乗降口にステップ照射灯などの足下照明を設置し、夜間の視認性を向上させる。 ・乗降口の一つは有効幅 800mm 以上とする。 ・乗降時のステップ高さは 285mm 以下(小型については 300mm 以下)とする。 ・傾斜は極力少なくする。 ・乗降口の両側(小型では片側)に握りやすくかつ姿勢保持しやすい握り手を設置する。
低床部通路	<ul style="list-style-type: none"> ・乗降口付近を除く低床部分の通路には段差やスロープを設けない。 ・車いすが移動する部分の通路幅は 800mm 以上とする。
床	<ul style="list-style-type: none"> ・床は滑りにくい材質又は仕上げとする。
後部段差	<ul style="list-style-type: none"> ・段差の端部は周囲の床と明確に識別する。 ・低床部と高床部間の通路に段差を設ける場合には、その高さは1段あたり 250mm 以下とする。
手すり	<ul style="list-style-type: none"> ・高齢者、障害者などの伝い歩きを考慮した握り棒や手すりなどを設置する。 ・車いすスペースについては、車いすの移動に支障をきたさないように握り棒や手すりなどを配置する。 ・握り棒や手すりは、乗客が握りやすい形状とする。
車内表記	<ul style="list-style-type: none"> ・車内表記は、わかりやすい表記とする。 ・車内表記は可能な限りピクトグラムによる表記とする。
降車ボタン	<ul style="list-style-type: none"> ・降車ボタンは、わかりやすく押し間違えにくい位置に設置する。 ・視覚障害者に配慮し、押しボタンの高さを統一する。ただし、優先席及び車いすスペースに設置する押しボタンはこの限りではない。
スロープ板	<ul style="list-style-type: none"> ・車いすを乗降させるためのスロープ板の幅は 800mm 以上とする。 ・地上高 150mm のバスベイより車いすを乗降させる際のスロープ角度は 9 度(約 16%勾配)以下とする。 ・スロープ板の表面は滑りにくい材質若しくは仕上げとする。 ・スロープ板は、容易に取り出せる場所に格納する。
車いすスペース	<ul style="list-style-type: none"> ・バスには2脚以上の車いすスペースを確保する。 ただし、車いすでの利用者の頻度が少ない路線にあっては1脚分でもやむを得ない。 ・車いすを取り回すためのスペースが少ない小型バスなどの場合は1脚分でもやむを得ない。 ・車いす使用者がバスを利用しやすい位置に車いすスペースを設置する。 ・乗降口から 3000mm 以内に設置する。 ・車いすスペースは、車いすが取り回しできる広さとする。 ・車いすを固定する場合のスペースは 1300(長さ) × 750(幅) × 1300(高さ)mm 以上とする。ただし2脚の車いすを前向きに縦列に設ける場合には2脚目の長さは 1100mm 以上で良い。 ・後向きに車いすを固定する場合には、車いすスペース以外に車いすの回転スペースを確保する。 ・車いす固定装置は、短時間で確実に車いすが固定できる構造とする。 ・車いす固定装置に付属する人ベルトを装着する。 ・車いす使用者がバス乗車中に利用できる握り手又は手すりを設置する。 ・車いす使用者が容易に利用できる押しボタンを設置する。
車外表示装置	<ul style="list-style-type: none"> ・車いすマークは、車外の乗客から容易に確認できるようにする。
車外放送装置	<ul style="list-style-type: none"> ・車外の乗客とバス乗務員とが容易に情報交換できるようにする。
優先席	<ul style="list-style-type: none"> ・対象乗客が利用しやすい場所に必要数の優先席を確保する。 ・優先席は対象乗客が安全に着座でき、かつ立ち座りに配慮した構造とする。 ・優先席には、乗客が利用しやすい位置にわかりやすい押しボタンを設置する。
室内色彩	<ul style="list-style-type: none"> ・座席、握り棒、通路及び注意箇所などは高齢者や視覚障害者にもわかりやすい配色とする。

標準仕様ノンステップバスの「標準仕様認定項目」 (大型ノンステップバス(10.5m長、2.3m幅)代表例)

